

12. ゴールド・フィールズ社(Gold Fields Limited)

1. 企業概要

本社	南アフリカ・ヨハネスブルグ
主要事業	非鉄金属鉱山
従業員数	31,396 人
決算日	6 月末日
主要関連会社	・ エルドラド社 (Eldorado Gold Corporation: 37%)

2. 財務状況 (US\$ million)

	2001/2000 年	2000/1999 年	1999/1998 年
売上高 Turnover	1,011	1,114	947
当期利益 Net earnings (loss)	(119)	103	(124)
資産 Total assets	1,557	2,035	2,203
流動資産 Current assets	130	160	140
負債 Total liabilities	680	822	977
流動負債 Current liabilities	127	169	207
株主資本 Shareholders' equity	877	1,213	1,226
探鉱費 Exploration ¹	8	21	14

3. 主要鉱産物の生産・開発状況

主要鉱産物の生産推移

	01/00 年	00/99 年	99/98 年	2001 年の 世界シェア
金 (t)	117.7	122.6	124.3	5.2 % (4 位)

4. 沿革

ゴールド・フィールズ社 (GFL 社) は、1998 年 2 月、南アフリカの 6 大マイニング・ハウスの一つとしてそれぞれ知られていた GFSA 社 (Gold Fields of South Africa Ltd.) とジェンコール社 (Gencor Ltd.) の金資産を統合して設立された。世界 3 位 (99 年生産量) の金プロデューサーである。

GFSA 社は 1887 年に設立された南アフリカ最大・最古のマイニング・ハウスであった。ドリエフォンテイン鉱山 (Driefontein)、クルーフ鉱山 (Kloof: 以上、金)、オーキープ鉱山 (O'okiep: 銅)、ブラック・マウンテン鉱山 (Black Mountain: 銅、鉛、亜鉛) などの優良鉱山に権益を保有し、経営の多角化を進めることで事業を拡大してきたが、硬直的な組織運営で知られる保守的な企業であった。

一方、ジェンコール社は 1895 年に設立されたジェネラル・マイニング社 (General Mining) が前身であり、1970 年代のユニオン・グループ (Union Corporation groups) との合併により社名が変更された。主な権益保有資産にはビートリックス鉱山 (Beatrix: 金)、サマンコール社 (Samancor Ltd.: クロム、マンガン) などがあり、金、ウラン、フェロアロイ、石炭などを生産する南アフリカ第 2 のマイニング・ハウスとして知られていた。

97 年 10 月、ジェンコール社と GFSA 社は両社の金資産を合併して Goldco 社 (仮称) を設立すると発表した。なお、こうした企業再編の動きは、昨今の南アフリカの鉱業事情が背景

¹ 2000/1999 年の探鉱費は R131 から算出。1999/1998 年の探鉱費は Corporation Exploration Strategies のデータを引用した。

にある。直接的には、採掘現場の深部化に伴うコスト増大、金価格の下落が要因で、70年に1,000 tを越えた金生産量が96年以降は500 tを下回るという状況に顕著に認められる。さらに、社会環境の変化として94年5月に黒人指導者マンデラ氏が大統領に就任、アパルトヘイトに基づく白人ならびに大企業優遇政策が撤廃され、98年、「新南アフリカ鉱物、鉱業政策白書」において“資源所有権（Mineral Rights）への課税および非生産鉱区の国家管理”の姿勢が示されたことが挙げられる。

当初、両社はドリエフォンテイン鉱山（Driefontein Consolidated Ltd.）を新会社の母体とすることで検討をすすめていたが、同鉱山の権益15.1%を保有したAAC社（現AAPlc社）が同社所有のウエスト・ディープ鉱山（West Deep）およびウルトラ・ディープ鉱山（Ultra Deep）に近接していることを理由に反対し、本案は白紙に戻った。その後、代替としてビートリックス鉱山を母体とする案が検討されたがこれも否決され、最終的にゴールド・シェルフ・ワン鉱山（Gold Shelf One）を母体とすることで決着した。新会社は、98年2月2日、GFL社としてヨハネスブルグ株式市場に上場された。

その後、GFL社、AngloGold社、AAC社、Amgold社が、各社の資産整理を目的としてGFL社とドリエフォンテイン鉱山の合併に合意、99年4月7日、同合意は両社株主によって支持され、5月4日、南アフリカ高等裁判所により承認された。こうして99年1月1日にさかのぼった両社の合併が成立し、新生GFL社が誕生した。この際、GFL社はAngloGold社の自社保有権益（21.5%）をAAC社に譲渡した。

さらに、2000年6月13日、GFL社はカナダ・トロントに本社を置く世界最大のマイニング・ロイヤリティー会社（mining royalty company）の一つであるフランコ・ネバダ社（Franco-Nevada Mining Corp.）と近日中に対等合併することを明らかにしたが、南アフリカ共和国政府当局の同意が得られず、合併計画は頓挫した。

5. 事業内容

南アフリカ共和国のWitwatersrand Basinにおいて、ドリエフォンテイン（Driefontein）、クルーフ（Kloof）、フリー・ステート（Free State）の3部門7鉱山に権益を有するほか、ガーナのタルクワ（Tarkwa）鉱山に権益を保有し、金を生産している。

01/00年主要権益保有鉱山による鉱石生産

オペレーション名	権益 %	鉱量 百万 t	タイプ	品位	生産量 (権益分)
ドリエフォンテイン（南アフリカ） Driefontein	100	118.3	UG	7.9 g/t	42.0 t
クルーフ（南アフリカ） Kloof	100	71.1	UG	12.9 g/t	37.7 t
ビートリックス（南アフリカ） Beatrix	100	67.8	UG	6.5 g/t	20.1 t
セント・ヘレナ（南アフリカ） St Helena	100	2.0	UG	5.0 g/t	4.2 t
タルクワ（ガーナ） Tarkwa	71.1	131	OP	1.6 g/t	13.7 t (9.7 t)

- オリックス（Oryx）鉱山は、ビートリックス4立坑（Beatrix 4 shaft）として、ビートリックス鉱山に併合された。
- ガーナで、タルクワ鉱山に近接するダマング（Damang）鉱山の権益をオーストラリアのRanger Minerals社から2002年1月に取得した。権益比率はタルクワ鉱山と同じく71.1%で、タルクワ鉱山との効率的な探鉱・開発が期待されている。なお、ダマング鉱山の2001年の金生産量は49.2 tで、鉱量20.7百万トン、金品位1.8 g/tである。
- 2001年11月にWMC社からオーストラリアのAgnew鉱山及びSt Ives鉱山の権益を取得した。Agnew鉱山及びSt Ives鉱山の2001年の生産量はそれぞれ6.3 t、16.0 tで、埋蔵量

は、Agnew 鉱山が 3.8 百万トン (5.0 g/t Au)、St Ives 鉱山が 21.7 百万トン (3.3 g/t Au) である。

6. 探鉱戦略

(1) 概要

デンバー、サンチャゴ、パース、ヨハネスブルグ、アクラ (ガーナ)、オックスフォードに事務所を構え、18 名のスタッフがプロジェクトの発掘・評価を行っている。また、探鉱の対象として、2 百万 oz 以上の金量、年産 200,000 oz 以上、キャッシュ・コストが金価格の半分以上等を掲げている。

00/01 年の探鉱予算は US\$ 40.0 百万で、前年度実績探鉱費 (US\$ 16.9 百万) から大幅に増加し、主要非鉄企業中 14 位であった。なお、GFL 社の探鉱予算には鉱山周辺探鉱は含まれない。

(2) 対象鉱種

主に金を対象としているが、白金族も対象としている。

(3) 対象地域・探鉱段階

中南米地域の探鉱に最も予算を振り分けている。探鉱段階に関しては、2000 年の探鉱予算はグラスルーツに US\$26.0 百万 (65%)、事業化調査に US\$14.0 百万 (35%) を充てている。



(4) 最近の動向

(中南米)

2001 年 12 月にカナダのジュニア Radius Exploration 社とグアテマラ Motagua 断層沿いの金鉱床の探鉱に関して、JV を組んだ。現在初期ボーリング調査を実施中で、1-2.2 g/t の鉱脈に着鉱している。

その他の中南米地域では、ブラジル、チリ、ペルーなどで初期探鉱を実施中である。

(アフリカ)

GFL 社のアフリカでの活動は、ガーナでの探鉱に力を入れている。Tarkwa 鉱山と 2002 年 1 月に権益を得た Damang 鉱山の間で探鉱を実施中である。

タンザニアでは英国の Twigg Minerals 社と JV でビクトリア湖周辺の探鉱を実施している。このうち Miyabi 鉱床は鉱量 2.06 百万トン、金品位 2.12 % が計上されている。

ブルキナ・ファッソでは、カナダの Orezone Resources 社と組んで、Essakane 鉱床の探鉱を実施している。

(フィンランド)

フィンランド北部でオートクンプ社との JV で白金を対象とした探鉱を実施している。GFL

社は6年間でUS\$13百万を拠出することで51%の権益を有している。探鉱区は300 km²で、南アフリカのブッシュベルド複合体に似た構造をもち、Suhanko 鉱床については、探鉱権を申請中で、確認埋蔵量 46.3 百万トン、白金品位 0.34 g/t、パラジウム品位 1.42 g/t、金品位 0.14 g/t が計上されている。

(その他)

ブルガリアで英国の Hereward Ventures 社と探鉱を実施している。